



# 三中だより

中野区立第三中学校学校

第4号

平成28年7月14日発行

## イスラムの国での生活経験から思う

校長 齊藤 久

バングラデシュの首都ダッカで悲しいテロ事件がありました。テロの犠牲になった日本人の皆さんはバングラデシュの発展のために尽力されていた方々でした。お亡くなりになった方の思いを察するあたり無念でなりません。ここに謹んで哀悼の意を表します。

犠牲になった7名の皆さんは JICA の仕事に携わっていました。報道で登場する JICA (ジャイカ) とは Japan International Cooperation Agency の略で、正式名は「独立行政法人 国際協力機構」と言います。JICA は、日本の政府開発援助 (ODA) を実施する機関として、開発途上国へ国際協力を行っています。

私は30歳代前半に3年間 パキスタンの首都の在外教育施設である日本大使館附属イスラマバード日本人学校に教員として派遣されていました。パキスタンはアフガニスタン、イラン、インドなどと国境を接し、南アジアの安定に重要な国として位置付けられています。人口は約1億9千万人です。これは世界第6位に相当します。また、人口の60%が25歳以下と言われ、将来的に大きな可能性がある国として期待されています。そのパキスタンは日本から多額の政府開発援助を受けています。そのためパキスタンには多数の JICA の関係者が仕事をしていました。日本人学校ではたびたび JICA 関係者に来校していただき、「専門家講話」という時間にご講義をしていただきました。また、青年海外協力隊員として、パキスタンの人々の暮らしが向上するために尽力していた日本の若者もたくさんいました。このように日本が様々な支援をしている状況から、パキスタンは親日家が多い国と言われている訳がよく分かりました。

パキスタンの人々の多くはイスラム教を信仰しています。日本に住んでいるとイスラム教を信仰している方にお会いする機会は少ないと思います。イスラム教徒は、仏教徒よりも多く、キリスト教に次いで世界第2位の宗教人口です。現地の人を一人でも多く雇用することが社会貢献につながるとの思いから、私の家にはたくさんのパキスタン人スタッフが働いていました。門番 (チョキダール)、



社会科 現地学習「警察署訪問」

運転手 (ドラバー)、子守り (アーヤ)、料理人 (コック)、皿洗い (ベアラ)、洗濯人 (ドビー)、庭師 (ガードナー)、掃除人 (スイパー) の8名です。イスラム教の特色と言えば1日5回メッカの方向を向いてお祈りをする事で有名です。1日に5回、同じ時間に全員がそろってお祈りすることはありませんでしたが、金曜日はイスラム教徒にとって特別な日になっており、モスク (寺院) へ出かけてお祈りをする事が信仰を深める大切な習慣となっていました。私の周囲のイスラム教徒は、優しさに溢れ、家族を大切に、厳しい戒律を守り、質素に生活していた人たちでした。異国の地での3年間の生活が無事に過ごせたのは、パキスタン人のスタッフのお蔭です。あのような悲惨なテロが起きると、イスラム教を信仰している人がすべてテロリストのように思われる誤解や誤報を聞くにつれ、とても残念に思います。

今も危険を顧みず、国際社会の中で世界の発展に貢献されている日本人がたくさんいます。すべての人々が幸せに生活できる平和な日が来ることを心から望みます。

## 積み重ねた経験を生かして

第三学年主任 川見晶子

事前学習は中2の冬休みから始まりました。進級して4月の総合的な学習の時間にそれぞれの班コースが練られることになりました。班員の相違を調整して見学地と行動時間を考えること、見学順や乗車する交通機関などを含めて何度も修正が繰り返され、完成したのは出発の2週間前でした。

1日目は新幹線で京都へ、そこからバスで奈良に入りました。はじめの法隆寺では、飛鳥時代の仏像群などを鑑賞しました。奈良公園ではシニアボランティアガイドの方がそれぞれの班に同行し班行動表に沿って午後4時50分まで見学しました。子どもたちは鹿に餌をやったり建物のスケールの大きさに驚いたり、雨に濡れて鮮やかさを増した苔も印象的で梅雨の季節の奈良を満喫しました。



2日目は京都の宿舎を班別に出発し、1、2年間積み上げた班行動の成果を発揮することでした。「〇組〇班〇名、異状ありません。出発します。」の報告後、携帯電話などさまざまな物を担当者が受け取り、出発する後ろ姿を見送りました。1つ目の見学地のあと、午前10時から、6種類（くみひも、京扇子づくり、西陣織、型絵染め、和本、漆器加飾）の伝統文化を班別に体験しました。1年時から体験学習をしていることもあり、どの

場所も時間通りに目標の作品を制作することができました。出来上がった作品を手にした嬉しそうな表情は忘れることができません。昼食は自分たちで決めていた茶店や食事処でおいしくいただいたようでした。多くの班が訪れた見学地の1つ清水寺は溢れんばかりの観光客で、浴衣姿の外国人を多く見かけました。その中で三中の生徒は、チャレンジ英会話を始めました。緊張した面持ちでしたが、途中からはフレンドリーな関係になり、最後は一緒に写真に納まるといった具合で



た。さすが三中生、この風景はよく似合っているなと感心して見ていました。清水寺で最後の班をチェックした時、「先生、今日は疲れました」と報告した班長がいました。蒸し暑い京都、日射しが出たり、パラッと雨が降ったりの天候でした。疲れもあってバスに乗り間違え、遅



れて宿舎に到着した班があったものの無事に全班が戻ってきました。多くの班は予定通り宿舎に戻ることができました。夕食のすき焼きの香りがそれぞれの部屋から漂い、子どもたちの歓声がわきあがっていました。夕食後3年間の最後を締めくくる伝統文化体験は、琵琶演奏でした。笙（しょう）・箏（ひちりき）・龍笛（りゅうてき）の音合わせから始まり、琵琶の歴史、琵琶演奏と1時間をこえる体験でした。千数百年の悠久の歴史を持つ音色に興味をもって真剣に耳を傾ける態度はとても立派でした。

3日目タクシーを利用した班行動、午前8時30分にはそれぞれの目的地へと向かっていきました。嵐山方面や伏見稻荷大社など、でもやはり一番多かったのは北野天満宮でした。みんなの願いが叶うといいですね。京都駅に到着した時は手にたくさんのお土産を持って、昼食で食べたものや、運転手さんとの話題など、語りつくせないほどの思い出をもって全班が、戻ってきました。帰りの新幹線では、会計簿の作成や国語の課題である俳句作りに取り組みました。富士駅付近に差し掛かった頃、新幹線の車窓からは遠くに富士山を望むことができました。

この修学旅行のために1年時の校外学習（浅草方面）、2年時の鎌倉移動教室と班行動を経験し、見知らぬ場所でも自信をもって班行動できるように力をつけてきました。その結果それぞれの生徒が役割を果たし、お互いを思いやって困った時など臨機応変対応に適切な行動がとれたこと、実行委員を中心に決められたルールを守ることができたことなど三年間の総仕上げができたのは一番の成果でした。また全体で集まる場面では「静かに」といった声が生徒の中から自発的に発せられ、主体的に行動できていることが分かりました。

最後になりましたが、1日目から行く先々で三中生は「挨拶がよくできますね、一緒にいてこちらも楽しめました、いい生徒さんですね」などお褒めのことばをいただきました。



## 小中連携教育

教務主任 鎌形孝二

6月16日に小中連携教育協議会が行われました。小中連携教育協議会とは、小中の教員が集まり、授業見学などを通して9年間の見通しをもった教育の課題について協議を深める機会です。今回は連携校である白桜小学校で行われ、6年生の授業には、小中相互の教員がティームティーチング形式で授業（『乗り入れ指導』）を実施しました。その後、小学校の先生方と三中の教員が集まり、「学びの連続性」をテーマに熱く議論を交わし、今後の指導について理解を深めることができました。

白桜小から届いた児童の『乗り入れ指導』の感想を紹介します。

「中学の先生と授業をやり、算数は前だときらいだったけどxとyの勉強が楽しくて、算数が好きになりました。英語の授業は、苦手で単語の発音も分からなかったのですが、分かりやすく教えていただいたので、似ている単語の違いなども分かったので、好きになりました。」（6年生・女子）

「短い時間だったけど、小学校の勉強が中学校に続いていることや、学ぶことの大切さを知りました。だからこそ、今回知ったことを生かし、立派な中学生になるためにがんばって勉強していきたいです。」（6年生・男子）

## 有意義な夏季休業を過ごすために

生活指導主任 土屋美樹

生徒たちは落ちついた雰囲気です学校生活を過ごしています。

生活の中心が学校から家庭に移る夏季休業は、生徒たちにとって家庭での役割や地域社会の一員としての責任を果たすこと、普段体験できない様々な事柄にふれる機会を持つことができる貴重な長期の休みです。規則正しい生活を心がけ、計画的に学習をすすめていくことが大切です。部活動や補充教室、また地域の活動にも積極的に参加できるとよいです。

生活リズムの乱れや気の緩みも懸念され、それによって事件・事故に巻き込まれることも予想されます。最近トラブルが増えているインターネットやSNSの使い方については特に注意が必要となります。6月11日にセイフティ教室を行い、情報モラル講演会にて、被害者にも加害者にもならない使い方やマナーなどトラブルも未然防止の啓発を行いました。未成年者の場合、SNS等の利用や投稿については、その保護者にも責任が及ぶこともありますので、ご家庭でも、SNS等のトラブル防止のために、お子様が日頃どのような利用をしているのか確認・把握と使用法や使用時間、マナー等の話し合い、そしてSNS家庭ルールの作成をお願いします。

全校集会では中野警察署による安全指導、また9月には集団下校訓練も予定しております。ご家庭でも災害時を想定した話し合い、交通事故防止のために交通ルールの確認やマナー指導をお願いいたします。

生徒ひとりひとりにとって有意義で実りある夏休みとなりますようお願いいたします。



## 学校評議員

この会の主旨は、地域に開かれた学校づくりを推進し、学校が地域社会との連携・協力のもとに特色ある教育活動を展開できるよう、教育委員会が委嘱した八束重宣様（上ノ原町会長）、岸哲也様（東中野五丁目小滝町会長）、小池清美様（次世代育成委員）、荻野嘉彦様（PTA 会長）、加藤礼子様（さくら館長）、佐々木直巳様（元 PTA 会長）、鈴木由美子様（元保護者）の7名の学校評議員の方にご助言等をいただくものです。7月9日に開催した第一回学校評議員会では、今年度の経営方針と学校状況等についてご説明し、ご助言をいただきました。今後も「15歳のあるべき姿を育む教育」を推進するとともに、地域とともに歩む学校づくりも推進していきます。

## 鎌倉校外学習

第二学年 芳賀貴明

本校では毎年、総合的な学習の時間に、日本の伝統文化について学ぶ時間を設けています。教育理念として共存・共生を掲げ、国際理解教育を推進していく一方では、日本独自の文化や歴史についても学ぶ機会をもち、理解を深めていくことが重要と考えているからです。今回の目的は、「日本の伝統文化に親しむ」ことだけでなく、「仲間と協力し、自主的に行動する」ことや、「校外活動における行動の仕方や決まりを身に付ける」ことも含まれていました。前回の校外学習は、第一学年で行った上野公園周辺でのものでした。今回は移動する距離も長く、行動範囲も大きくなりました。また、今回は自分たちで飲食店を選び、昼食をとる計画でした。小遣いの範囲内でおやつなどの軽食も一回まで認められました。校外学習として今後予定されているスキー教室や、来年度の修学旅行も視野に入れた学びの場としたいという気持ちをもって、学年の教員たちは生徒たちの実行委員とともに計画を練ってきました。自由な行動が増えた分、生徒たちは見学地について入念に事前学習を行い、コースを検討しました。

当日は初夏の暑熱も奇跡的に和らぎ、歩くのには最適の涼しい一日となりました。生徒たちは、計画通りに学習を達成してこようと、意欲的に古都・鎌倉を歩き回ってきました。そのなかでは古いお寺や、落ち着いた家屋が混在する鎌倉の美しさや伝統文化を体感しました。また班長を中心として、設定した時間に見学地に到着できるよう協力してコースを巡ってきました。ハイキングコースなどの山道を越えて、歴史的な街道を体験できた班もありました。そして決まりを守って行動しようと、互いに声を掛けあっていました。



もちろんすべてうまくいったわけではなく、なかなか事前の計画通りにいかないこともありました。また決まりを守れなかったなど、課題となったことに関しては、生徒たち自身からも振り返りの声が上がってきています。今回の校外学習は、今後の宿泊行事や修学旅行を計画していくうえでとても大切な経験になりました。

生徒たちの作文は、一部ですが第二学年便りにも載せております。学年の保護者の皆様はぜひご一読ください。

## 今後の主な予定

7月20日（水）前期前半授業最終日	9月 1日（木）前期後半授業開始日
7月21日（木）夏季休業始（～8月31日）	集団下校訓練
夏季補充教室始（～31日）	9月 2日（金）帰国生保護者会
夏季水泳教室始（～26日）	9月10日（土）学校公開、道徳地区公開講座
三者面談始（各クラス毎）	9月14日（水）定期考査（～16日）
8月31日（水）夏季休業終	